

# 甲斐市立竜王小学校 自己評価書

平成31年2月4日（月）作成

校長 「小尾 一彦」 記述者 職名（主幹教諭）「内藤 賢」

学校教育目標 「明るく元気な竜の子」の育成

- ・た…助け合う子ども……………（情）
- ・つ…強い心を持った子ども…（意）
- ・の…伸びゆく体の子ども……（体）
- ・こ…根気強く学ぶ子ども……（知）

## 学校経営方針

- (1) 教職員の英知と和を結集し、学校教育目標の具現化に努める。
- (2) 児童一人ひとりの自己実現を目指す学校づくりを推進する。
- (3) 研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりを推進する。
- (4) 特色ある学校づくりに努める。
- (5) 安全・安心な学校づくりに努める。



# 1 全体評価

平成28年度より、学校評価は年1回の実施となり11月に実している。教職員の自己評価は、次の全6観点で行っている。

- 「学校教育目標・学校経営について」
- 「学校運営について」
- 「学習指導について」
- 「生徒指導について」
- 「地域との連携について」
- 「学校の特色に関して」

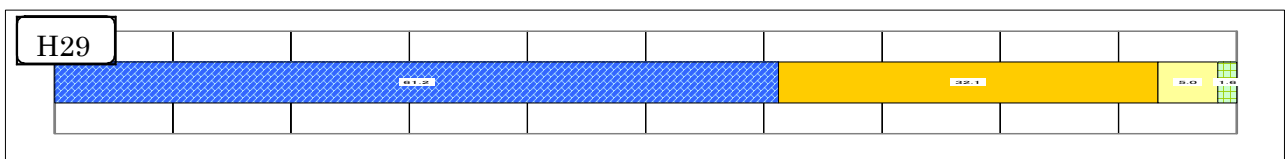
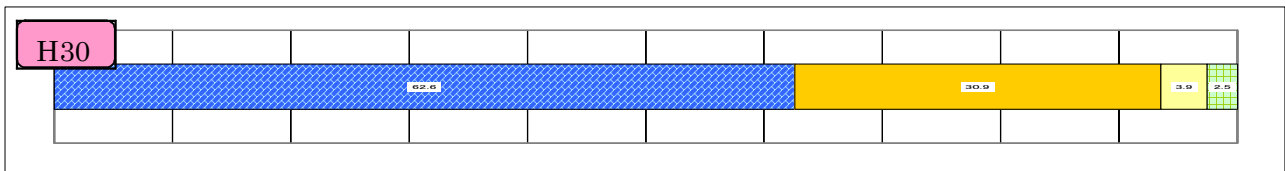
## 5段階評価

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思わない（黄）
- D：そう思わない（緑）
- E：わからない（紫）

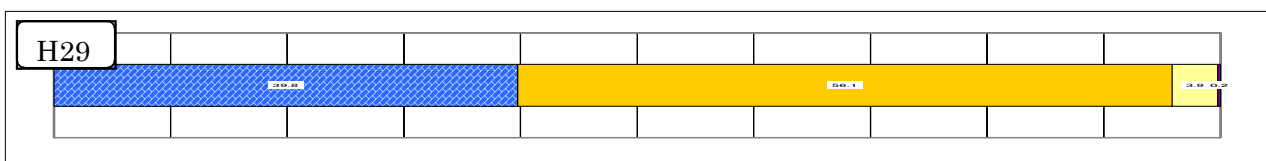
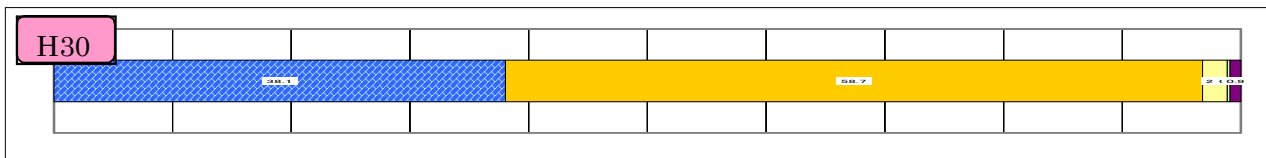
「E：わからない」は、担当外の場合のみつける。  
また、年1回の実施のため、昨年、一昨年度の結果を踏まえながら検討している。

(1) 「すべては子どもの幸せのために」を合言葉に、校長を中心に学校教育目標具現化を目指し、「**チーム学校（チームドラゴン2018）**」として協働し、研鑽を積んでいる。学習規律「**明るく元気な竜の子15箇条**」を学習基盤とした授業改善、生活指導が、教職員が入れ替わっても安定して実践できるように、共通理解を図るための研修と組織的な指導を行うことで、子どもたちの落ち着いた学校生活につなげている。より正確な結果から改善につなげるため、評価の時間を設定し、内容を確認しながら実施した。今年度の自己評価も、項目全てで「A+Bの肯定的評価」が90%以上となり、教職員が子どもたちのために誠実に職務に専念する姿勢が表れている。

(2) 児童アンケート「**学校は楽しいですか。**」の肯定意見（AB）が94%となり、多くの児童が学校生活に満足する状況である。一方、否定意見（CD）の児童が昨年同様約6%（28人）いる。日常적인見取りやQ-U調査等により、気になる児童について共通理解の中で継続対応しているが、今後もきめ細かな指導を行っていくことが必要である。



(3) 保護者アンケート「**お子さんにとって学校は楽しいところだと思う**」の肯定意見は約97%だった。昨年までと同様の傾向にある。



## 2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

### I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況

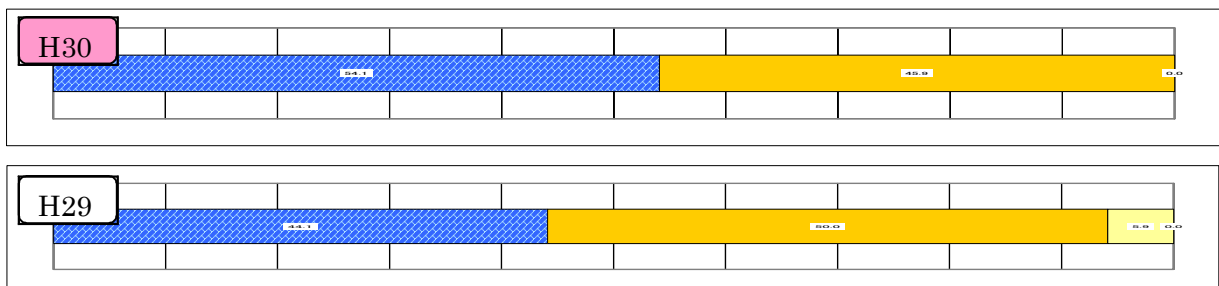
番号	項目	H29評価				H30評価			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
1	あなたの学校は、学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている。	97.1	2.9	0.0	0.0	86.5	13.5	0.0	0.0
2	あなたは、学校経営方針に基づき、教育活動を行っている。	68.6	31.4	0.0	0.0	70.3	29.7	0.0	0.0
3	あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。	94.3	5.7	0.0	0.0	83.8	16.2	0.0	0.0
4	あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。	60.0	40.0	0.0	0.0	70.3	29.7	0.0	0.0
5	あなたの学校は、P→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている。	80.0	20.0	0.0	0.0	75.7	24.3	0.0	0.0
6	あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。	57.1	40.0	2.9	0.0	56.8	43.2	0.0	0.0
7	あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。	44.1	50.0	5.9	0.0	54.1	45.9	0.0	0.0
8	あなたの学校は、特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている。	79.4	20.6	0.0	0.0	86.5	13.5	0.0	0.0

#### （1）設問1～6について

昨年度よりAの割合が下がっている内容もあるが、CDがなく、概ね良好と言える。「あなたは」で始まる項目には、特に厳しく評価していると思われる。P D C Aサイクルを生かした教育活動については、特に「カリキュラムマネジメント」が求められる。①教科等横断的指導、②人的・物的資源活用を中心に、個々がP D C Aを確立する意識を高めたい。

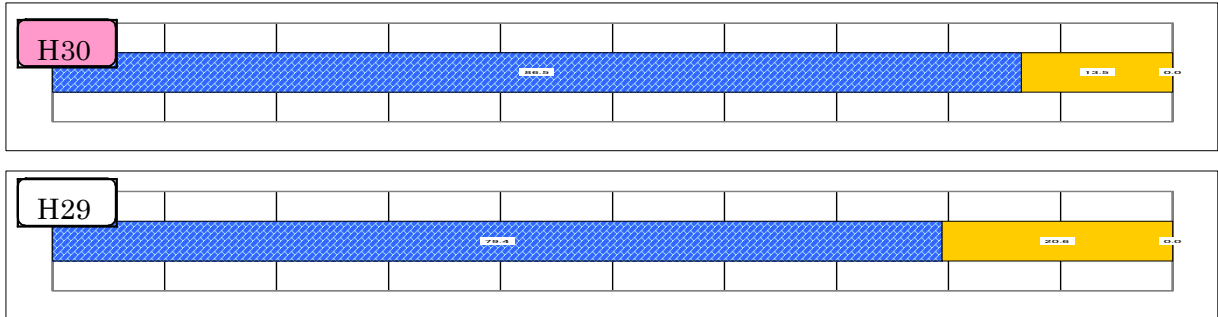
#### （2）設問7「職場の福利厚生，健康管理」

昨年度、課題となっている項目である。学校の多忙化対策に、管理職が中心となって取り組んだ効果が表れてきている。また、指導要録やあゆみ、出席簿のデータ化により学級担任の負担が軽減された。引き続き改善を進めたい。



### (3) 設問8「特別支援教育」

昨年度は、数値的には充実した体制と言えるが、特別支援学級担任の負担が大きい点を重視して課題としていた。今年度は、特に情緒障害学級の児童数が多いため、支援員がつく割合を増やしたり、交流学級担任との連携がなるべくスムーズにとれるよう努力したりしてきた。



改善策

- (1) 新学習指導要領で求められるカリキュラムマネジメントについて理解を深め、効果的・効率的な指導のために教科等横断的指導，地域の人的・物的資源の活用を常に考えながら日々の授業をつくり，教育課程に反映していく。
- (2) 引き続き，管理職を中心とした多忙化への取り組みを行う。仕事の適正化，組織化を進める。
- (3) 特別支援学級担任が困難を抱え込まないように，支援体制や補欠体制を整え，交流学級担任とのコミュニケーションが円滑に進むよう支援する。

## II 学校運営について（保護者アンケートも含めて）

達成状況

番号	項目	H29評価				H30評価			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とても思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とても思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
1	あなたは、校舎内外の施設設備を定期的に点検し、結果を的確に処理・報告(整備・保全)している。	65.7	34.3	0.0	0.0	72.2	27.8	0.0	0.0
2	あなたは、危機管理(防犯、防災、事件、事故等)マニュアルを理解している。	37.1	62.9	0.0	0.0	35.1	64.9	0.0	0.0
3	あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。	80.0	20.0	0.0	0.0	62.2	37.8	0.0	0.0
4	あなたの校務分掌は、学校運営上、機能している。	71.4	25.7	2.9	0.0	52.8	47.2	0.0	0.0
5	あなたは、職員会議に、積極的に関わっている。	67.6	29.4	2.9	0.0	52.8	47.2	0.0	0.0
6	あなたは、他の教職員と相互理解や信頼関係を深めて、教育活動にあたっている。	71.4	28.6	0.0	0.0	78.4	18.9	2.7	0.0
7	あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている。	85.7	14.3	0.0	0.0	91.9	5.4	2.7	0.0
8	あなたは、校内研究(研修)に主体的に関わっている。	44.1	50.0	5.9	0.0	33.3	61.1	5.6	0.0
9	あなたは、教育活動の円滑な実施のために、児童や家庭に対して目標の徹底を図っている。	47.1	50.0	2.9	0.0	42.4	57.6	0.0	0.0

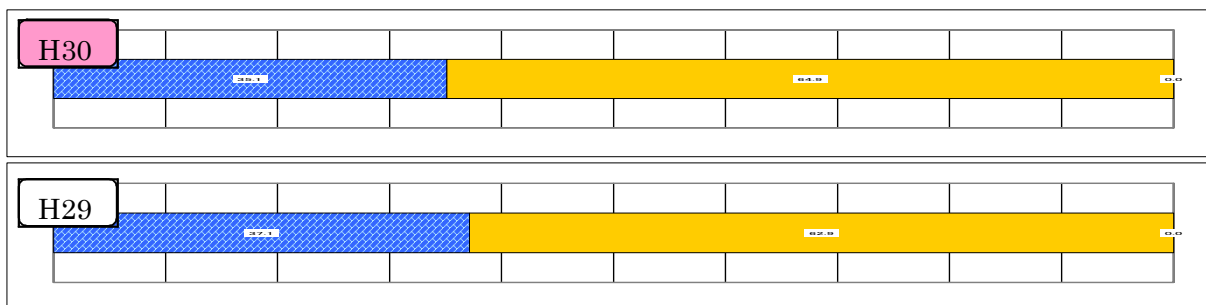


### (1) 設問1, 3~7, 9について

概ね良好と言えるが、設問6, 7ではC評価が1名いた。様々な課題に対して組織的に対応する中で意思疎通を深めているが、相互理解・信頼関係がより深まるようにふだんから一人一人がコミュニケーションを心がけたい。

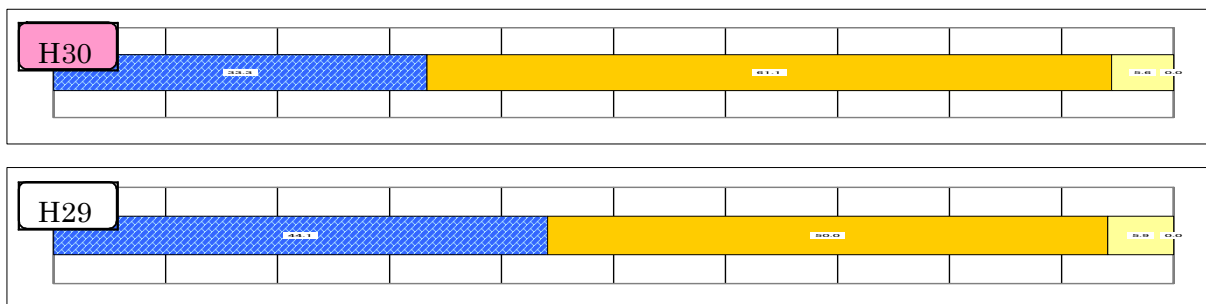
### (2) 設問2「危機管理マニュアル」

昨年度の反省を踏まえ、危機管理マニュアル理解のために、職員会議での避難訓練提案時に危機管理マニュアルにふれるようにしたが、自信を持ってA評価につながらない。昨年2月に文部科学省から出ている「危機管理マニュアル作成の手引き」を参考にしたり、扱う機会を増やしたりする必要がある。



### (3) 設問8「校内研究への主体的関わり」

若手教職員が年々増加する今後を見通せば、学校の教育力維持向上のために、ますます校内研究は必要である。組織的に研究を行うことで、今求められる教育課題に対応する。水曜日の放課後に研究を行う時間を堅持し、忙しい中でも教育水準を保っていく。



改善策

- (1) 日々忙しい中で、教職員間でコミュニケーションを深める時間は確実になくなっている。学年内、教務の中だけでなく、意識して他学年や教務とコミュニケーションをとるように心がけ、相互理解を深めていく。
- (2) 防災・防犯訓練の時期や内容の検討を行ったり、より実践的な防災・防犯訓練を実施したりする。また、避難訓練提案や研修の折には危機管理マニュアルを扱って確認する。
- (3) 本校の実態、課題に沿った校内研を、組織的・計画的に継続して今後も行っていく。校内初任研や若手育成グローアップ事業と連携することで、第1ステージ教員（採用5年目までの教員）も主体的に取り組む。

### Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び）保護者アンケート等も含めて）

達成状況

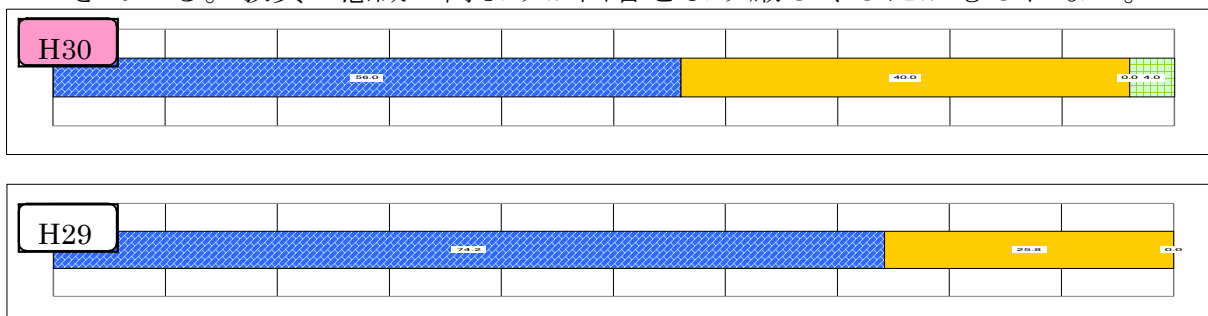
番号	項目	H29評価				H30評価			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
1	あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。	71.0	29.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0
2	あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。	61.3	38.7	0.0	0.0	59.3	40.7	0.0	0.0
3	あなたは、基礎・基本の定着を図る授業を行っている。	74.2	25.8	0.0	0.0	70.4	29.6	0.0	0.0
4	あなたは、個に配慮した授業を行っている。	58.1	41.9	0.0	0.0	59.3	40.7	0.0	0.0
5	あなたは、評価規準と評価方法を明確にした授業を行っている。	41.9	54.8	3.2	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
6	あなたは、教材教具や備品等を活用した授業を行っている。	77.4	19.4	3.2	0.0	65.4	34.6	0.0	0.0
7	あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている。	54.8	45.2	0.0	0.0	46.2	53.8	0.0	0.0
8	あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。	74.2	25.8	0.0	0.0	56.0	40.0	0.0	4.0
9	あなたは、児童の思考力・判断力・表現力を伸ばすような活用型の学習活動に取り組んでいる。	61.3	38.7	0.0	0.0	52.0	48.0	0.0	0.0
10	あなたはALTとの外国語(英語)学習を実施する中で、国際理解を高める指導を行っている。	66.7	33.3	0.0	0.0	50.0	45.0	5.0	0.0

#### (1) 設問1～7, 9, 10について

本校が取り組む学習規律やほめ言葉のシャワー、問題解決型学習への理解が深まってきているととらえる。設問9の「活用型の授業」については、学級担任が、日々基礎・基本の徹底を重視しているため、活用型の授業に十分時間をかけることができていると思われる。指導内容が増える中で、本校が研究する「効果的・効率的な学習」の研究を進めたい。

#### (2) 設問8「家庭学習への指導」

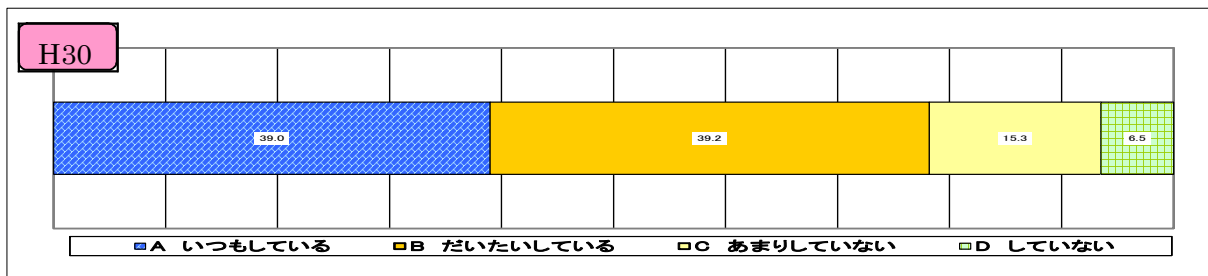
D評価が1名いること、A評価が昨年より下がったことから意識が低下したように捉えられるが、児童のアンケートでは家庭学習時間が改善に転じてきている。教員の意識の高まりが回答をより厳しくしたかかもしれない。



### 【児童アンケート結果】

甲斐市では、「学年×10分+10分」が家庭学習時間の目安となっている。

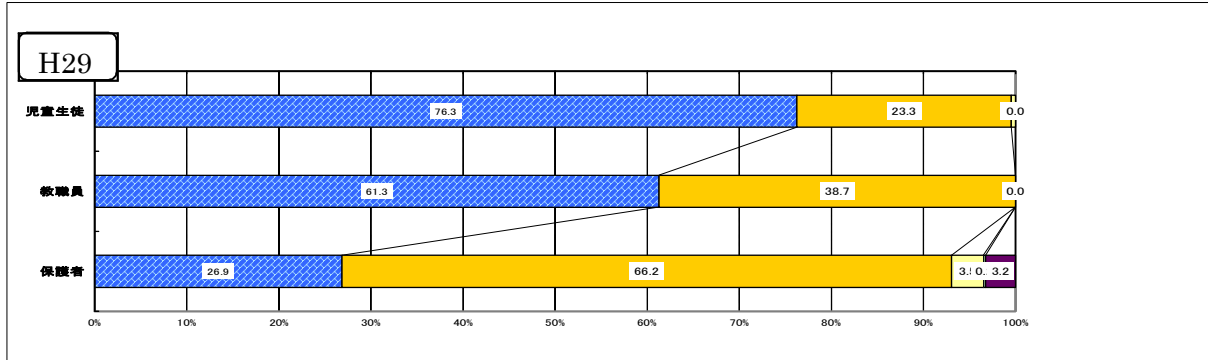
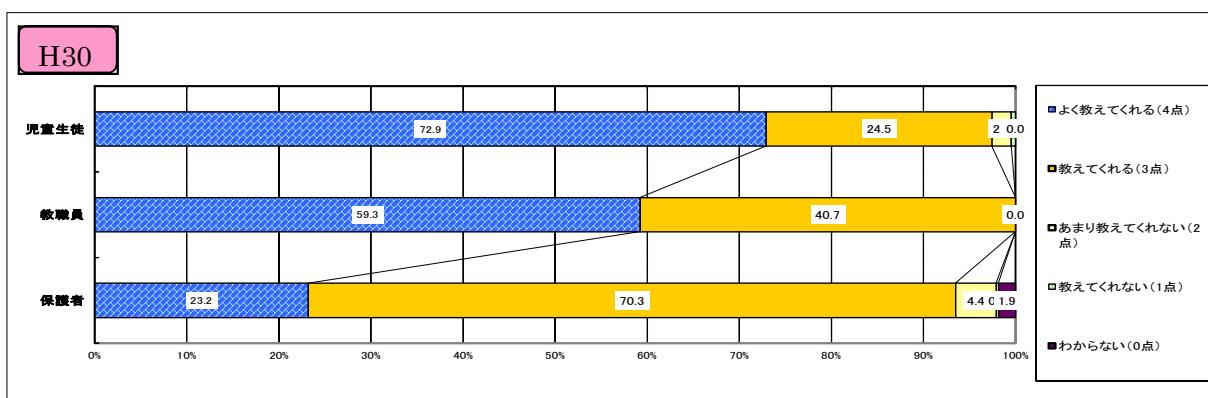
昨年度までは、CD評価が拡大傾向にあり二極化傾向が心配されたが、今年度は、歯止めがかかりAB評価が増えてきている。家庭の協力や教職員の取り組み効果が表れてきていると言える。課題が改善されてきている。



### (3) 学習指導への児童，保護者，教職員の相関図

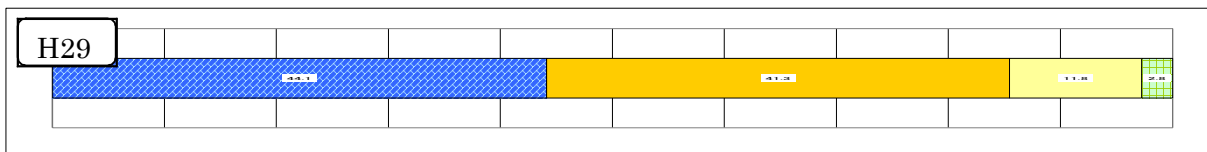
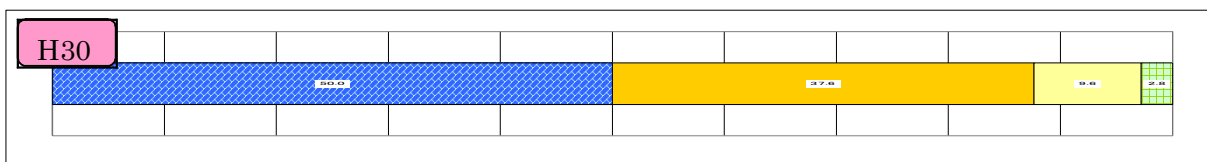
設問内容 児童「先生はよく勉強を教えてくれる」  
 教員「学びの意欲を喚起する授業を行う」  
 保護者「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う」

昨年までと同様，児童はA回答が多いが，C「あまり教えてくれない」と回答した児童が増えている。教員一人一人が「あまり教えてくれない」と児童に思わせる原因を振り返り，真摯に改善する。



**(4) 児童アンケート「字を上手に書く意識」**

やはたいぬくんの後押しもあり、昨年度より字を丁寧に書こうとする意識に高まりがある。児童が字を書く機会は多岐にわたるので、家庭とも連携し



て高い意識を継続させたい。

改善策

- (1) 活用型学習に有意義に取り組むには、基礎・基本となる知識・技能の確実な習得が不可欠なので、今後も知識・技能の習得の徹底を図るとともに、総合的な学習の時間の指導の充実と、効果的・効率的な学習指導により活用型学習の指導時間確保を意識していく。
- (2) 児童が「先生はよく勉強を教えてくれる」と思わないことに理由があると捉え、教えるべき学習内容を確実に指導する。また、学年内で指導内容に差がないようにする。

**IV 生徒指導について（児童生徒用及び）保護者アンケート等も含めて）**

達成状況

番号	項目	H29評価				H30評価			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とても思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とても思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
1	あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。(対:児童生徒)	80.0	20.0	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0
2	あなたは、児童生徒の規範意識をはぐむ指導に取り組んでいる。	74.3	25.7	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0
3	あなたは、生き方教育(キャリア教育・進路指導など)を児童生徒の実態に応じて行っている。	57.1	40.0	2.9	0.0	47.1	52.9	0.0	0.0
4	あなたは、問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応ができています。	62.9	34.3	2.9	0.0	52.8	47.2	0.0	0.0
5	あなたの学校は、職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている。	88.6	11.4	0.0	0.0	80.6	19.4	0.0	0.0
6	あなたの学校は、児童生徒の健全育成のために、学校・保護者・地域及び関係機関との連携が図られている。	80.0	20.0	0.0	0.0	86.1	13.9	0.0	0.0
7	あなたは、「明るく元気な竜の子15箇条」を意識して、生活指導に取り組んでいる。	73.5	26.5	0.0	0.0	69.4	30.6	0.0	0.0



### (1) 生徒指導全般について

どの項目も高い達成率を示している。キャリア教育や問題行動でA評価が低いように見えるが、キャリア教育は独立した学習でなく、教科等学習の中で行っていることからA回答でないと思われる。また、問題行動は発見が難しい場合もあるため、A回答しづらいと考えられる。

### (2) 教職員と児童のコミュニケーション相関図

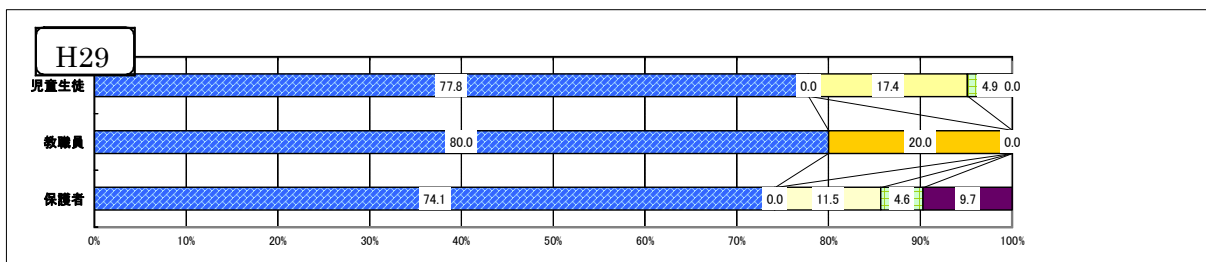
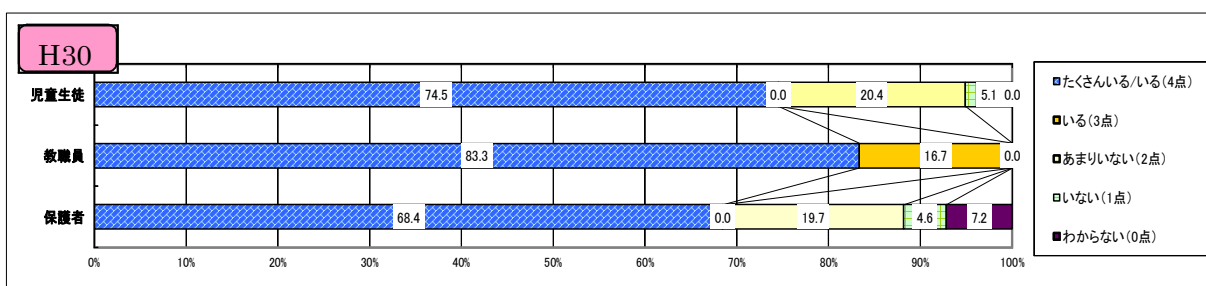
設問内容

児童「困ったことがあったら、相談できる先生がいますか」

教員「あなたは、児童理解のためにコミュニケーションを図っている」

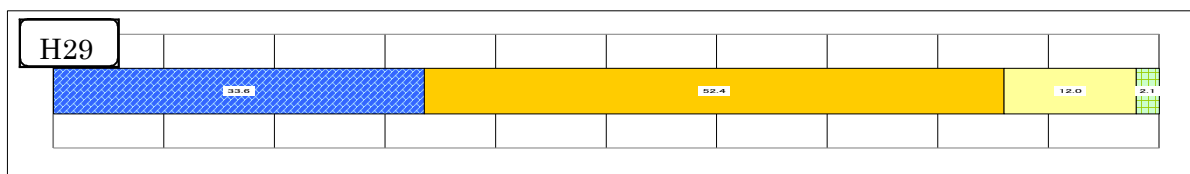
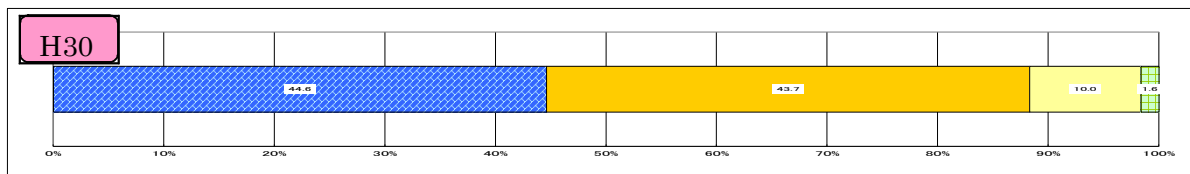
保護者「お子さんのことで、相談できる先生がいますか」

保護者で肯定的評価をつけた割合が昨年度より5%ほど下がっていて、市全体の平均割合からも5%ほど低くなっている。日頃から一層コミュニケーションに努める必要がある。



### (3) 児童アンケート「竜の子15か条を守る意識」

昨年度までA回答が減少傾向にあり課題であったが、生徒指導担当、児童会担当を中心とした取り組みの成果が表れ、改善してきている。本校の学習基盤なので、今後も教職員が高い意識で指導を持続したい。



改善策

- (1) キャリア教育への意識  
 学年主任が中心になって、キャリア教育の年間計画を学年始めに確認する。
- どの学習のどの単元等で、どのような能力を育成するのかを若手教員にもわかるように確認をする。
- (2) 保護者とのコミュニケーション  
 相談できる先生が「あまりいない」、もしくは「わからない」割合が高いのは、家庭と学校のコミュニケーションが十分でないと考えられる。忙しい中でも、信頼関係を築くために日頃からコミュニケーションを心がける。  
 また、PTA活動や地域行事等に主体的に参加する。

**V 地域との連携について**

達成状況

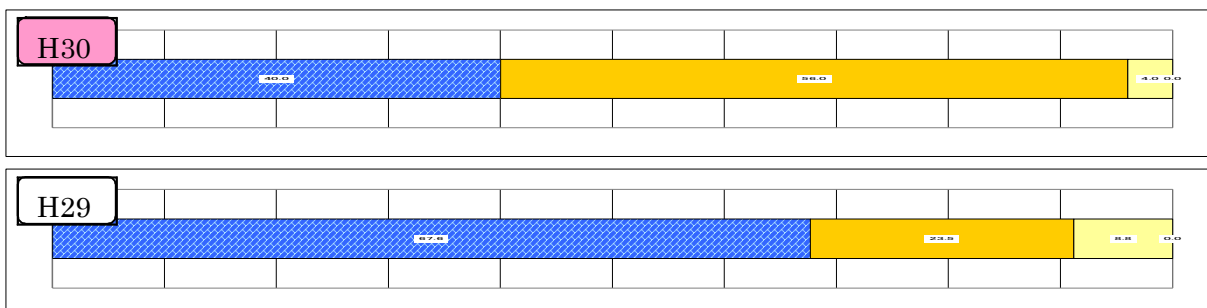
番号	項目	H29評価				H30評価			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
<b>V 地域との連携について</b>									
1	あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。	67.6	23.5	8.8	0.0	40.0	56.0	4.0	0.0
2	あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。	61.8	38.2	0.0	0.0	50.0	46.2	3.8	0.0
3	あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。	80.0	20.0	0.0	0.0	94.6	5.4	0.0	0.0
4	あなたは、PTA活動に主体的に参加している。	52.9	41.2	5.9	0.0	47.1	50.0	0.0	2.9
5	保護者は、PTA活動に協力的である。	44.1	55.9	0.0	0.0	59.5	40.5	0.0	0.0
6	地域・保護者は、児童生徒の安全確保に努めている。	64.7	35.3	0.0	0.0	70.3	29.7	0.0	0.0
7	保護者は、学習指導や生活指導に協力的である。	32.4	67.6	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
8	あなたの学校では、学校評議員制度や学校関係者評価委員会の話し合いの結果が学校教育に生かされている。	73.5	23.5	2.9	0.0	72.2	27.8	0.0	0.0
9	あなたの学校では、協力者会議を定期的で開催し、学校教育への理解と地域教育の向上に努めている。	82.4	14.7	2.9	0.0	82.4	17.6	0.0	0.0

### (1) 地域との連携全般について

概ね良好であるが、教職員の地域連携やPTA活動参加にやや課題がある。今後ますます地域連携・協働が求められることから、学校と地域、家庭との連携協働を意識した教育活動が必要となる。

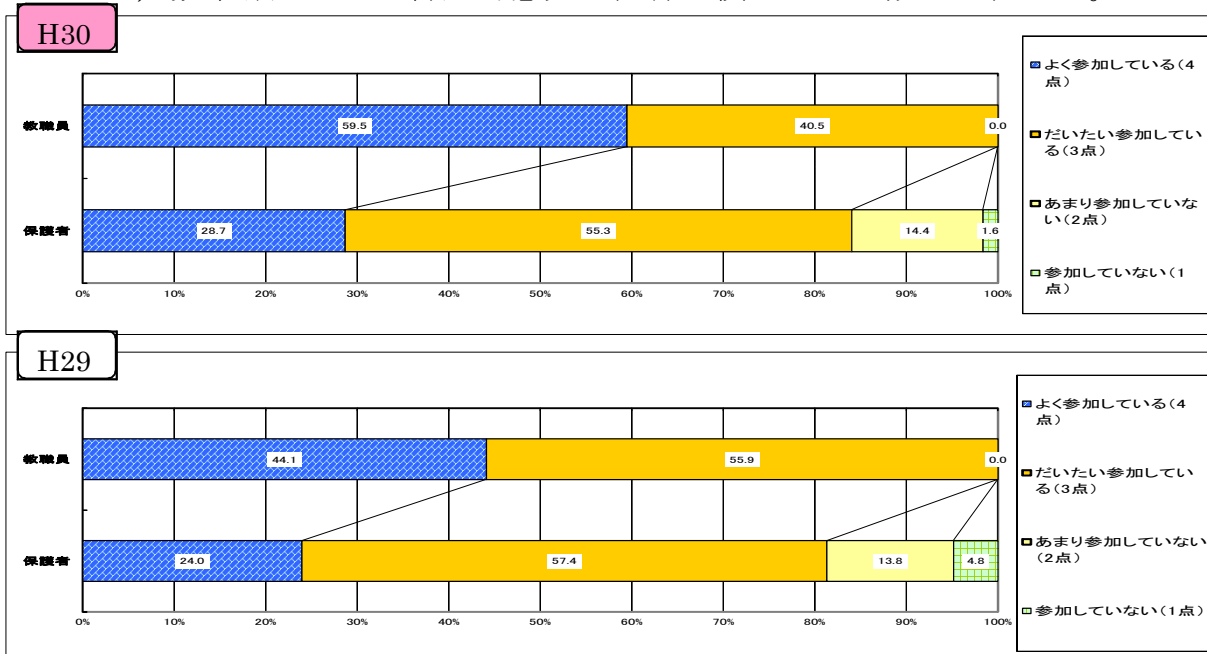
### (2) 地域の活用

新学習指導要領では、「カリキュラムマネジメント」として地域の人的・物的資源活用を明記している。また、学校が地域を活用する意識だけでなく、学校が地域のために役立つようにすることも求めている（協働）。しかし、学校の忙しさの現状を考えると、無理のない範囲で、各学年で地域協働に向けたカリキュラムマネジメントを意識する必要がある。



### (3) 保護者のPTA活動

昨年度に比べ、保護者のPTA活動参加に対する肯定的意見が増加している。本会役員、専門部を中心とした取り組みへの協力意識の高さが全体に広がり、数年課題だった否定的意見の割合が横ばいから減少に転じた。



\* 上が教職員，下が保護者

改善策

- 日々の授業を行う中で、地域と協働できる活動等を洗い出したり、実践したりしながらカリキュラムマネジメントを進める。
- 今年度から管理職だけでなく教員全体で地区のラジオ体操に参加したように、PTA行事の童小まつりや運動会保護者席ライン引きにも教員全体が参加してPTA活動へ意識やコミュニケーションを高める。

## VI 学校の特色に関して

達成状況

項目	H29評価				H30評価			
	A	B	C	D	A	B	C	D
	とても思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とても思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
VI 学校の特色に関して								
児童生徒が進んで挨拶をするよう、指導に努めている。	97.1	2.9	0.0	0.0	86.5	13.5	0.0	0.0
授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え、定期的に実施している。	97.1	2.9	0.0	0.0	91.9	8.1	0.0	0.0
児童が積極的に「読書活動」に取り組むよう、指導に努めている。	85.7	11.4	2.9	0.0	73.0	24.3	0.0	2.7
「児童会行事」に、児童が進んで取り組むよう、指導に努めている。	91.4	8.6	0.0	0.0	83.8	13.5	0.0	2.7
短縮日課など、時間割を工夫する中で、授業時数の確保に努めている。	91.4	8.6	0.0	0.0	78.4	18.9	0.0	2.7
教育機器(ICT等を含む)を、積極的に取り入れた活動を行っている。	88.6	11.4	0.0	0.0	73.0	27.0	0.0	0.0

### (1) 学校の特色全般について

どの項目でも肯定的評価が高い数値にある。教職員が入れ替わり、担任学年が変わっても組織的な対応により、本校の特色を生かす指導ができています。児童会活動では、担当が計画的な指導を行い、学級担任は児童会や各委員会が企画運営する活動に意欲的に参加できるよう支援している。

### (2) 読書活動

朝の時間の読書タイムや授業枠での図書時間、図書委員会による様々な取り組み、外部団体「おとぎ日和」「むかしがたりの会」による朗読等、本校では今年度も読書活動に力を入れている。

### (3) 授業時数の確保

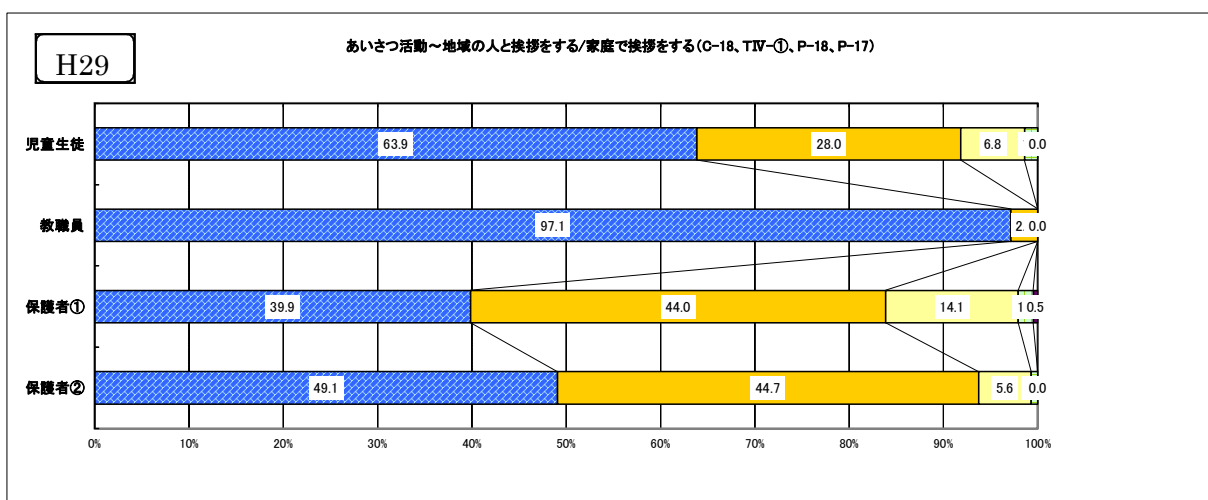
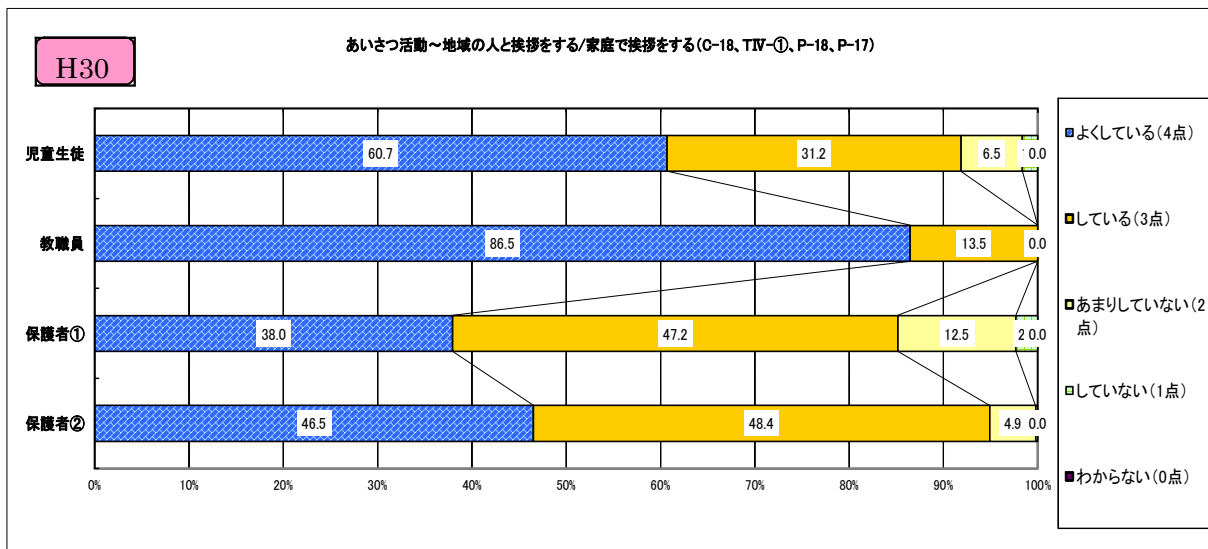
3, 4年生で年間35時間, 5, 6年生で年間70時間の外国語実施に向けて、甲斐市の教育条件を踏まえ、45分枠を増やさずに(水曜日を6校時にしない)、1, 2学期は朝の15分, 3学期はより確実に理解を図るために5校時前に15分の短時間学習を設ける(15分×月火水=45分)ことにより授業時数を確保している。

水曜日を6校時としないのは、外国語以外の教育諸課題に対応し、教育水準を保つため、組織的に研究、対応する時間を確保するためでもある。

一方、今年度は、行事のための4校時日課の日を短縮5校時日課で行ってみるなど授業時数の確保を積極的に行っている。

#### (4) あいさつの状況

全体的に少しずつ昨年よりもA評価が低下しているのがわかる。ささいな変化だが、この時点で見逃さず、もう一度皆で力を入れる必要がある。生徒指導担当や児童会が中心となって行っているあいさつへの取り組みを大切にしながら、教職員全体で高い意識を維持したい。また、今後も地域や家庭とも連携して取り組む。



\* 保護者①は地域の人とのあいさつ、保護者②は家庭でのあいさつ



### 3 まとめ

#### 〈成果〉

- ・家庭学習の二極化傾向が改善されてきていること。
- ・市の指導重点である文字指導について、日々の指導により字を丁寧に書こうとする意識が向上してきたこと。
- ・学習基盤となる「竜の子15か条」を守る意識が改善に転じたこと、また、全職員で一丸となって改善のために取り組めたこと。
- ・保護者のPTA活動に対する意識が昨年よりさらに高まってきていること。
- ・教職員が入れ替わったり、担当学年が変わったりしても本校の特色を維持できていること。

#### 〈課題〉

- ・「多忙感」の解消は少し改善したものの、「多忙」自体が変わらないこと。  
(継続課題)
- ・豊かな教育活動を実践するために、「地域との連携協働」を進めるカリキュラムマネジメントを無理のない範囲で行うこと。(継続課題)
- ・「先生はよく勉強を教えてくれる」と児童に思わせる姿勢で授業を行うこと。
- ・教師もPTA活動への意識を高める等、保護者とのコミュニケーションを心がけて信頼関係を深めること。
- ・あいさつの習慣は崩れてしまうと立て直しには時間がかかるため、兆しが見えた時点で教職員がよりいっそう高い意識であいさつ習慣の確立に取り組むこと。